令和５年度 社会福祉法人岡垣町社会福祉協議会事業報告

～みんながつながる“お互いさま”の地域(まち)づくり～

≪基本方針≫

岡垣町では、少子高齢化や核家族化が進み、住民相互のつながりが希薄化するなど、地域や家庭を取り巻く環境は大きく変化しています。それに伴い、虐待や孤独死、生活困窮者への支援や災害時などに手助けが必要な避難行動要支援者への対応など、様々な地域課題が顕在化してきています。また、住民の福祉サービスに対するニーズは多様化し、従来のような高齢者、障がいのある人、子どもなどの対象者ごとに支援する個別の制度の中では、多岐にわたるニーズに十分に対応できない状況が生じています。

このような状況の中、年齢や障がいの有無にかかわらず、住民や学校、事業者など地域社会を構成するすべての人々が互いに支えあいながら、多様な主体の結びつきにより、ともに課題を解決していく共生社会づくりが求められています。

そして、多様で複合的な地域生活課題を解決するためには、住民相互の支えあいによる互助の取り組みを進め、自助、互助、共助、公助の連携によって、子どもから高齢者まで、すべての住民が住み慣れた家庭や地域で安心して暮らし続けることができるような仕組みを作っていく必要があります。

岡垣町社会福祉協議会では、岡垣町の地域福祉計画と一体的に策定した地域福祉活動計画に基づき、高齢者や障がいのある人、子どもなど様々な領域を地域の視点でとらえ、住民主体の地域福祉を支援する立場からより効果的な実践に取り組みました。

本年度、岡垣町福祉総合計画と社協地域福祉活動計画を岡垣町との協働により、計画策定が完了しました。

≪基本理念≫

みんながつながる“お互いさま”の地域(まち)づくり

私たちの暮らしの基盤は「地域」にあります。地域の絆、地域での人と人とのつながりや困ったときに助け合える関係、支えあう仕組みづくりが重要となっています。岡垣町では、「互助」のさらなる充実により、地域で課題を解決していく力や地域での支えあい・助け合いの力の底上げをめざしました。支え手側と受け手側に分かれるのではなく、みんなが互いに支えあいながら、自分らしく活躍できる地域を目指し、基本理念を「みんながつながる“お互いさま”の地域(まち)づくり」としました。

≪基本目標≫

１．お互いに支えあう「つながり」づくり

２．地域福祉を支える「ひと」づくり

３．地域でともに生きる「環境」づくり

４．誰もが安心して暮らせる「まち」づくり

≪基本目標ごとの取り組み≫

１．お互いに支えあう「つながり」づくり

私たちのくらしの基盤は「地域」にあります。地域での人々のつながりや支えあい、生活課題の解決に向けた取り組みが一人ひとりのくらしを守り、豊かなものにしてくれます。近所づきあいは、あいさつ程度と希薄化していますが、地域での支えあいや助け合いの必要性は増しています。

支えあいや助け合いを進めるためには、日頃から地域で交流することを通じて、お互いを知り、「お互いさま」と言える関係づくりを進めていく必要があります。地域の人たちが交流し、つながり、そして、支えあい、助け合うことができる仕組みづくりを進めました。

（１）お互いさま命のネットワークの強化

【具体的な取り組み】

■お互いさま命のネットワークの推進

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■自治区でのネットワーク活動を推進支援し、見守り協力機関含めた重層的な見守り体制づくりに努めました。また、緊急時には地域・行政と連携して迅速に対応しました。

【主な事業】

１）お互いさま命のネットワーク活動の推進・支援

自治区でのお互いさま命のネットワーク活動推進を目的に、活動に関する相談や情報提供など、自治区活動の支援を行いました。

また、社会的孤立を防ぐ身近な地域での支えあいの基盤となるネットワーク活動を推進・支援するため、地域関係者・関係団体等と連携・協議するなど、地域での重層的な見守り体制の構築に向け取り組みました。

〇お互いさま命のネットワーク活動見守り協力機関 57 事業所

重層的な見守り体制構築に向け、今回新たに第一生命保険株式会社北九州総合支社と見守り協定を締結しました。

〇お互いさま命のネットワーク活動に関する情報交換会

海老津区　令和５年６月４日　海老津公民館　参加者約 35 人

海老津校区コミュニティ健康・福祉部会情報交換会　令和５年８月 30 日　東部公民館

内　容　ネットワーク・ふれあいサロンに関する情報交換

参加者　健康・福祉部会約 30 人、社協２人など

（２）ふれあい交流活動の充実

【具体的な取り組み】

■ふれあいサロンの推進　■ふれあい交流事業の充実　■世代間交流の充実

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■住民同士の交流や居場所づくり、健康づくり・介護予防等を目的とした「ふれあいサロン活動」を推進・支援しました。

【主な事業】

１）ふれあいサロン活動の推進・支援

少子高齢化や核家族化の進行による住民同士のつながりが希薄化するなか、ひとり暮ら

し高齢者や高齢者のみの世帯等が地域で孤立しがちとなっており、各自治区単位での住民主体の通いの場である「ふれあいサロン活動」を、民生委員・児童委員等の関係者と連携して推進・支援しました。

また、社協だより等を活用して、子どもや子育て世代等も対象に含めた「世代を超えたサロン活動」など、特色のある取り組みを実施している自治区を掲載することで、他の自治区にも参考となる情報提供を行いました。

〇ふれあいサロン活動支援自治区　20 自治区（R4年度 14 自治区）

波津、内浦、手野、新松原、上高倉、山田峠、緑ヶ丘、高尾、旭西、旭中、旭東、百合ヶ丘、南高陽、戸切、新海老津、上畑、野間一、野間二、東高倉、公園通り中

２）ふれあい交流事業の充実

〇地域ふれあい交流会「社協夏まつり」　　屋内多目的施設すぱーく岡垣

地域ふれあい交流とボランティア活動等の促進を目的に、社協夏まつりを開催しました。

令和５年８月 26 日　参加者 690 人

〇障がい者クリスマス交流会（障がい児含む）　　いこいの里

障がい児・者の社会参加の促進とふれあい交流を目的に、障がい者団体、ボランティア団体、九州共立大学・九州女子大学の協力を得て、障がい者クリスマス交流会を開催しました。

令和５年 12 月 18 日　参加者 74 人

〇在宅介護者のつどい　　いこいの里

在宅介護者の心身のリフレッシュや情報交換、ふれあい交流を図るとともに、在宅介護者の会「こもれびの会」会員の増員を目的に、在宅介護者のつどいを開催しました。

令和５年 11 月 29 日　参加者 18 人

〇囲碁・将棋大会　いこいの里

高齢者のふれあい交流と異世代間での交流を目的に、岡垣棋友会の協力のもと開催しました。

令和６年２月 11 日　参加者 28 人

３）おもちゃ図書館の運営

障がいのある子どもや親が自由に楽しく遊ぶ場、また、同じ悩みを持つ家族が語り合える場として、おもちゃ図書館ボランティアたんぽぽの会の協力により、毎月第２土曜日・毎週木曜日（第１・３木曜日３歳までの乳幼児に一般開放）に開館しました。

開館日　56 日（うち一般開放 21 日）

利用者数

障がい者（児）：延べ 164 人・乳幼児等：延べ 73 人・家族等：延べ 144 人

見学等：延べ８人

（３）地域の多様な支えあいの促進

【具体的な取り組み】

■地域コミュニティ活動の推進　　■生活支援体制の構築

■地域での健康づくり・介護予防活動の推進　　■分野を超えた連携の推進

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■住民主体の助け合いや、地域と事業所の連携など、公的サービスでは困難な助け合いを推進支援しました。

■生活支援コーディネーターとして本人、地域、事業所をつなぐ役割を担いました。
■町内の社会福祉法人とのネットワークの構築に向けて取り組みました。

【主な事業】

１）生活支援体制整備事業（町受託事業）

コロナ後に活動を再開できない地域や、活動がマンネリ化している地域に対して積極的に出向き、地域の居場所や支えあい活動を日常の中に取り戻すために丁寧な支援を行いました。また、地域の力だけではなく、社会福祉法人をはじめとする事業所とつながる様々な機会をつくることで、新たな取り組みを生み出しました。

〇話し合いの場（第１層・第２層協議体）　いこいの里

第１回／令和５年９月30日

内　容　今年度から開始した「福祉ツクル講座」の参加３自治区（野間一、野間二、東高倉）から、取り組みテーマや感想等を発表してもらい、８つに分けたグループでそれに対する意見交換を行いました。次に、「地域×事業所＝？？？」と題し、野間二区と丘の上の白い美術館に住む人達（事業所）の実践報告から、それぞれの地域や事業所で取り組まれている連携した取り組みについて情報共有を行いました。最後に、「地域の居場所応援事業所リスト」について、地域の側から事業所に関する知りたい情報や提案などを発表し合い、まとめました。

参加者　48 人（自治区長、民生委員・児童委員、事業所、町民等）

第２回／令和６年３月２日

内　容　今年度改訂した「地域の居場所応援事業所リスト」を活用して、地域と事業所の交流会を行いました。リストに掲載している 25 事業所中 16 事業所が参加してそれぞれブースを設置し、まずはＰＲタイム（事業所ごとに３分の自己紹介）を行い、その後、地域からの参加者が希望する事業所のブースを訪れ、担当者と直接情報交換を行うことで、具体的なつながりが生まれました。

参加者　63 人（自治区長、民生委員・児童委員、事業所、住民など）

〇各自治区の取り組みへの支援（各区内にある小さな居場所、集まり等も含む）

情報提供および活動支援など

内浦校区／波津、内浦、手野、新松原　★オレンジカフェ海の見える丘

吉木校区／三吉団地、三吉、高倉、上高倉、公園通り西　★オレンジカフェ天狗屋

海老津校区／高尾、旭西、旭中、旭東、新海老津、海老津、上畑、野間一、野間二、野間四、東高倉　★丘の上の白い美術館に住む人達

山田校区／山田峠、東山田、緑ヶ丘、旭南、東松原、高陽、百合ヶ丘、鍋田、西高陽、東高陽、南高陽

戸切校区／戸切百合野、上海老津、龍王団地　★は自治区以外（オレンジカフェ・施設）

〇福祉ツクル講座

内　容　参加地域が月に１回集まって意見を交換する集合研修と、参加地域に出向いて地域のペースに合わせて進める実践研修を組み合わせ、具体的な取り組みを創り出すことを目的に開催しました。

実　績　①野間一区：子育て世代を巻き込んだ取り組み

子どもたちの長期休みを活用して、７月と３月に「ジュニア版ふれあいサロン」と題したバスハイクを実施し、地域の役員や高齢者等が見守り役

となって交流を深めました。実施後は、盆踊りなど地域行事への若い世代の参加も増加しています。

②野間二区：有償の助けあいの仕組みづくり

７月に全世帯対象のアンケートを実施し、ニーズを把握したうえで協議を重ねて要綱等を整備しています。同時進行で、中心となる５人が高齢者宅等にＰＲし、20 人程度が登録し、チケット制でサービスを試行的に行っています。

③東高倉区：有償の助けあいの仕組みづくり

既存の団体「2000 年会」を中心に協議を重ね、短時間・低コストで完結できるような助けあいの仕組みづくりを検討しています。２月に全世帯対象のアンケートを実施してニーズを把握し、次年度の実施を目指しています。

〇地域の居場所（ふれあいサロン等）応援事業所リストの改訂【第２版】

内　容　地域の大切な“居場所”を守っていくために、25 の介護事業所の協力を得て、第２版として「地域の居場所応援事業所リスト」を発行しました。初版はタイトルに「ふれあいサロン」と付けていましたが、地域にはそれ以外にも子ども会や寿会、オレンジカフェなど多様な取り組みがあることから名称を改め、子ども向けの項目も追加しました。

〇事業所と地域の連携した取り組み

対　象　丘の上の白い美術館に住む人達（事業所）×（地域）野間二区

内　容　事業所側から「地域とつながりたい」という相談を受け、施設が所在する野間二区と相談を進めて区に加入し、職員と入居者が地域の清掃や盆踊りなどの地域行事にも参加するようになりました。また、地域の有志が集まって、入居者・職員と一緒に施設の空きスペースに「農園」を作ったことで、お互いに気軽に施設と地域を行き来できるような良好な関係を築いています。

〇町との連携および情報共有

生活支援コーディネーター連絡会への出席

本事業を活用して、地域共生社会の実現や校区コミュニティのあり方を模索するため、長寿あんしん課、福祉課、地域づくり課、社協に相談支援包括化推進員を配置し、連絡会に出席しました。

参加状況　第１回：令和５年４月 25 日　第２回：令和５年５月 30 日
第３回：令和５年６月 27 日　第４回：令和５年７月 25 日
第５回：令和５年８月 29 日　第６回：令和５年 10 月 11 日
第７回：令和５年 12 月 13 日　第８回：令和６年１月 30 日
第９回：令和６年２月 27 日　第 10 回：令和６年３月 21 日

主な内容　コロナ禍における地域情報の共有、生活支援コーディネーター業務の進捗状況、必要な社会資源の検討、話し合いの場の開催など

研修会等への出席

町の生活支援コーディネーター（長寿あんしん課）と共に研修会等へ参加し、先進的な取り組み事例等に関する情報収集を行いました。

参加状況　令和５年６月６日　福岡県生活支援コーディネーター連絡会（ﾘﾓｰﾄ）

令和５年７月 13 日　ＳＣカフェ（ﾘﾓｰﾄ）
令和６年２月６日　　長野県移動サービス事例報告会（ﾘﾓｰﾄ）

２）地域ケア個別会議への出席

個別事例について、多職種による専門的かつ多様な視点で検討を行うことで、自立支援と重度化予防につなげることを目的とした地域ケア個別会議に出席しました。個別課題の検討を積み重ねることで地域の共通課題を把握するとともに、事例を担当する介護支援専門員と情報共有し、地域でその人の暮らしを支えるための具体的な取り組みへつなぎました。

〇地域ケア個別会議（ﾘﾓｰﾄ形式）

開催日　第１回：令和５年５月 25 日　　第２回：令和５年７月 27 日
第３回：令和５年９月 28 日　　第４回：令和５年 11 月 16 日
第５回：令和６年３月 21 日

参加者　地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、居宅サービス事業所
理学療法士、管理栄養士、歯科衛生士、薬剤師、保健福祉環境事務所
生活支援コーディネーター 等

３）地域介護予防活動支援事業（町受託事業）

地域におけるネットワークの構築、介護予防の知識や方法を地域に普及する人材育成及び介護予防に資する地域組織（ふれあいサロン等）の支援を実施しました。

地域介護予防活動支援

・ふれあいサロン活動支援　　20 地区・２団体 44 回　参加者延べ 878 人
（R４年度：14 地区２団体 40 回　参加者延べ 681 人）

出前楽らく健康教室

・講師　ＮＰＯ法人北九州スポーツクラブ連絡会
・中央公民館：全 23 回　参加者延べ 1,297 人
　東部公民館：全 48 回　参加者延べ 3,395 人

脳若トレーニング教室　いこいの里　参加者 22 人

・講師　ＮＰＯ介護予防で日本を元気にする会
・全 12 講座（原則：７月 14 日～10 月６日毎週金曜日）

介護予防サポーター養成講座　いこいの里　参加者 15 人

・講師　ＮＰＯ法人北九州スポーツクラブ連絡会
・全 12 回（原則：令和５年９月 28 日～令和５年 12 月 21 日毎週木曜日）
・内容　講話、ストレッチ体操、筋力トレーニング、実践練習等

介護予防サポーターのつどい

・第１回　令和５年８月 30 日　いこいの里　参加者 40 人
　内　容　講義　「フレイル予防について」
　　講師　遠賀中間医師会おかがき病院　理学療法士 古海卓馬 氏
　　運動実技　「懐かしい曲に合わせて動きましょう」「脳トレ」
　　北九州スポーツクラブ連絡会　田村香代子 氏
・第２回　令和６年２月 22 日　いこいの里（ふれあいサロン交流会合同開催）
　参加者　65 人（うち介護予防サポーター45 人）
　内　容　交流会
　　運動実技　ＮＰＯ法人北九州スポーツクラブ連絡会

介護予防サポーター地区活動支援　実施自治区１２区・２団体
ケア・トランポリン運動教室　いこいの里
・指導　日本ケア・トランポリン協会
デモンストレーション　令和５年５月12日　参加者６人
令和５年10月３日　参加者８人
ケア・トランポリン運動教室　前期の部
Ａコース　参加者27人　全16回
Ｂコース　参加者17人　全16回
ケア・トランポリン運動教室　後期の部
Ａコース　参加者32人　全16回
Ｂコース　参加者23人　全16回
自動血圧計・非接触型体温計貸出業務
・自動血圧計貸出９件（自治区、団体）・非接触型体温計貸出１件

４）社会福祉法人連携協議会の運営

連携協議会に関する地域貢献事業、研修会について、作業部会を開催し協議しました。

岡垣町内社会福祉法人連携協議会（R2.1 発足・７法人）
参加法人　社会福祉協議会（会長・事務局）、日本傷痍者更生会（副会長）
高章会（監事）、岡垣睦福祉会、つつみ会、局会、いわき福祉会
連携協議会
第１回 令和５年７月14日　いこいの里 参加者11人（事務局職員含む）
内容「令和４年度事業報告・決算及び令和５年度事業計画（案）・予算（案）について」「岡垣町福祉総合計画・地域福祉活動計画について」「岡垣町社会福祉協議会会長表彰について」「災害時の支援について」「ふくおかライフレスキューについて」
作業部会
第１回 令和５年11月17日　いこいの里 参加者８人（事務局等職員含む）
協議事項等：「地域の生活支援について」「DWAT（災害派遣福祉チーム）について」「研修会について」
地域貢献活動
令和６年２月10日　町内　参加者７人（４法人）
身体が不自由で自宅の片付けが難しい低所得世帯の清掃活動を行いました。
役職員研修会
令和６年２月25日　いこいの里　参加者27人
テーマ「社会福祉法人の地域における公益的な取り組み」
講師　北九州・臨床ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ研究所
代表 衣笠一茂 氏

２．地域福祉を支える「ひと」づくり

地域福祉の主役は、地域の人たちです。子どもから高齢者まで、地域のすべての人たち

が地域福祉の担い手としての自覚を持ち、「お互いさま」の心で支えあい、助け合う人づくりを進めました。

また、地域の身近な支援者である民生委員・児童委員の活動を支援し、ボランティアや地域の「お世話焼きさん」など地域福祉を推進する「ひと」づくりを進めました。

（１）福祉のこころを育む意識の醸成と啓発

【具体的な取り組み】

■地域と学校の連携体制の推進　■福祉教育の推進

■認知症への理解の促進　■障がいのある人の差別解消の推進

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■学校と連携し、児童を対象に福祉教育を実施しました。

【主な事業】

１）福祉体験講座（学校・地域）の実施

他人への思いやりや、やさしい心を育むことを目的に、小・中学校等と連携し、福祉教育を実施しました。

〇福祉教育導入講座（“福祉とは”）

内浦小学校	４年生（１クラス）	１日：１コマ	参加者 13 人
吉木小学校	４年生（２クラス）	１日：２コマ	参加者 48 人
海老津小学校	４年生（４クラス）	２日：４コマ	参加者 115 人
山田小学校	４年生（４クラス）	１日：４コマ	参加者 107 人
戸切小学校	４年生（１クラス）	１日：１コマ	参加者 14 人

〇車いす体験

内浦小学校	４年生（１クラス）	１日：２コマ	参加者 14 人
吉木小学校	４年生（２クラス）	１日：４コマ	参加者 49 人
海老津小学校	４年生（４クラス）	２日：８コマ	参加者 114 人
山田小学校	４年生（４クラス）	２日：８コマ	参加者 111 人
戸切小学校	４年生（１クラス）	１日：２コマ	参加者 14 人

〇視覚障がい（アイマスク）体験

海老津小学校	４年生（３クラス）	３日：８コマ	参加者 99 人
戸切小学校	４年生（１クラス）	１日：２コマ	参加者 13 人

〇視覚障がい（点字）体験

吉木小学校	４年生（２クラス）	１日：４コマ	参加者 48 人

〇手話体験（手話通訳者：石田氏、聴覚障がい者：２人）

内浦小学校	４年生（１クラス）	１日：２コマ	参加者 12 人

〇義足ユーザーとの交流（ゲスト：櫻たかこ氏）

山田小学校	４年生（４クラス合同）	１日：２コマ	参加者 110 人
海老津小学校	４年生（４クラス合同）	１日：２コマ	参加者 106 人
内浦小学校	４年生（１クラス）	１日：２コマ	参加者 12 人

〇認知症サポーター養成講座

戸切小学校	４年生（１クラス）	１日：１コマ	参加者 11 人
岡垣中学校	１年生（４クラス）	２日：４コマ	参加者 156 人

〇総まとめプレゼン大会

戸切小学校	４年生（１クラス）	１日：２コマ	参加者 14 人

〇福祉教育読本「ともに生きる」、福祉教育教材「ともに生きる」配布

町内５年生を対象に、福祉を身近なものとしてとらえ、ともに生きる大切さを学習するための副読本として、福祉教育読本「ともに生きる」配布しました。また、福祉教育での教材として活用してもらうため、福祉教育教材「ともに生きる」を町内４年生に配布しました。（福岡県社協作成）

福祉教育読本「ともに生きる」配布数 335 冊

福祉教育教材「ともに生きる」配布数 355 冊

〇福岡県福祉教育推進員連絡会および福祉教育担当者会議への参加

連絡会や研修会等に参加することで、他市町村との情報共有を通して新たな知識や参考となるプログラムの習得に努めました。

福岡県福祉教育担当者会議　春日市クローバープラザ

令和５年 12 月 26 日

福岡県市町村社協職員研修（福祉教育・ボランティア）　リファレンス大博多

令和６年３月 26 日

福岡県福祉教育推進員連絡会　春日市クローバープラザほか

令和５年 12 月 26 日、令和６年３月 26 日

２）認知症サポーター養成講座の実施

認知症を正しく理解し、地域でサポートができる人材づくりの講座を、行政と協働し小学生と中学生を対象に開催しました。

認知症サポーター養成講座　戸切小学校４年生（１クラス）　参加者 11 人

岡垣中学校１年生（４クラス）　参加者 156 人

〇認知症ケア地域推進事業

認知症を正しく理解し、認知症になった人を地域全体で見守る体制づくりが必要とされています。お互いさま命のネットワーク活動で認知症になっても住み続けられる地域づくりの構築を推進するため、自治区や寿会等で認知症サポーター養成講座を実施しました。

令和５年６月 22 日　いこいの里 47 人　岡垣町寿会連合会

令和５年６月 23 日　いこいの里 47 人　岡垣町寿会連合会

令和５年７月 29 日　西高陽区公民館 24 人　西高陽区

令和５年９月 21 日　百合ヶ丘区公民館 22 人　百合ヶ丘長寿会

令和５年 10 月 28 日　戸切区公民館 18 人　戸切区

令和６年２月 18 日　南高陽区公民館 16 人　南高陽区

（２）地域活動を支える担い手の育成

【具体的な取り組み】

■民生委員・児童委員の活動への支援　　■地域福祉活動を担う人材の育成

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■民生委員児童委員協議会の事務局として、各委員との連携を深め、その取り組みを支援しました。

■地域福祉に関する研修会や講座を開催し、人材育成に取り組みました。

【主な事業】

１）岡垣町民生委員児童委員協議会との連携強化

社協と民児協とは、地域福祉を展開していく上で協力が不可欠であり、民児協との連携

を強化するため、社協が民児協の事務局を担い支援しました。

２）地域人材育成事業（町受託事業）

地域共生社会の実現に向け、すべての住民が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができるよう、住民に身近な圏域において、自らが地域福祉の担い手として主体的に行動する人材育成を図ることを目的に地域人材育成講座（福祉マナブ講座、福祉ツクル講座）を実施しました。

■基礎編　これからの暮らしを考える「福祉マナブ講座」

対象者　町内在住または町内に勤務されている方

日時	内容
【第１回】 ７月15日	テーマ　住みやすい地域社会のために ～地域共生社会について考えよう～ 講　師　臨床ソーシャルワーク研究所　代表 衣笠一茂 氏 参加者　33人
【第２回】 ８月19日	テーマ　認知症と共に生きる（基礎編） ～認知症になっても在宅で暮らすヒント～ 講　師　医療法人光風会 宗像病院　精神保健福祉士 高杉 正 氏 参加者　40人
【第３回】 ９月16日	テーマ　認知症と共に生きる（実践編） ～認知症に対して私たちができること～ 講　師　医療法人光風会 宗像病院 精神保健福祉士 高杉 正 氏 参加者　50人
【第４回】 10月21日	テーマ　今、知っておきたい介護保険のこと 講　師　岡垣町居宅介護支援事業所部会 参加者　20人
【第５回】 12月16日	テーマ　これからの健康づくりに必要なこと ～健康寿命を延ばしていつまでも元気に～ 講　師　おんが病院訪問看護リハビリテーション 理学療法士 林 剛己 氏 参加者　50人
【第６回】 １月20日	テーマ　認知症になっても安心して暮らせる社会とは 講　師　映画上映「オレンジランプ」 参加者　63人

■実践編　助けあいの一歩を踏み出す「福祉ツクル講座」

対象者　具体的に助けあいに取り組みたい「地域」を対象とした講座

日時	内容
【第１回】 ６月15日	テーマ　なぜ今、助けあい？ ～自分の地域にあったテーマを決めよう～ 参加者　16人
【第２回】 ７月20日	テーマ　助けあいを考えよう！ ～内容？対象？料金？仕組み？～ 参加者　19人
【第３回】 ８月22日	テーマ　助けあいを見に行こう ～みんなで考えた視察先へ行ってみよう～ 新宮町生活支援ボランティア「絆ＢＯＮＤＳ」 参加者　12人
【第４回】 ９月30日	テーマ　助けあいをひろげよう ～それぞれの取り組みから学びあおう～ 参加者　63人　※話し合いの場と合同開催

（3）ボランティア活動の推進

【具体的な取り組み】

■ボランティアの育成、支援

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■ボランティアセンターに登録しているボランティア 44 団体に対して、ボランティア活動を支援しました。

1）福祉ボランティアの養成・支援

ボランティアセンターを岡垣町から受託したことに伴い、社協だよりや社協ホームページを活用してボランティアセンターの周知啓発を図りました。また、いこいの里館内に「ボランティア掲示板」を設置し、ボランティア情報を提供しました。

〇出張ボランティア相談会

令和５年５月 17 日　中央公民館　参加者 11 人
令和５年５月 24 日　中央公民館　参加者 12 人
令和５年 11 月８日　中央公民館　参加者９人
令和５年 11 月 15 日　中央公民館　参加者５人

〇ボランティアセンターだよりの発行

ボランティア活動をしている現場に出向き、奇数月に発行する「岡垣町ボランティアセンターだより」を通して、ボランティア活動の普及に努めました。

発行総部数 8,418 部（６回／奇数月：全戸配布 1,403 部）

〇中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会ボランティア研修会

令和５年 11 月 25 日　遠賀町中央公民館　参加者 14 人
講演　「災害とボランティア活動～災害時にボランティアとして何ができるか～」
講師　福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター　主査 藤本博昭 氏

〇ボランティア交流会

令和６年２月 24 日　いこいの里　参加者 31 人（17 団体）
内容　グループワーク
相手の事を知る為にボランティア団体同士がボランティアをはじめたきっかけやよかったことをお互いに話した後、悩みやボランティアセンターへの要望を共有し、ボランティアセンターの役割を踏まえ、これからのボランティアのあり方を考えるためのワークショップを行い、ボランティア同士のつながり、ボランティア活動の活性化につなげました。

〇ふくおか“きずな”フェスティバル

令和６年２月 18 日　春日市クローバープラザ　参加者 13 人

・基調講演　ボランティア活動の『いま』と『これから』
～コロナ禍を超え「お客様」から「地域の築き手」に！～
講師　社会福祉法人 大阪ボランティア協会　理事長 早瀬 昇 氏
・ボランティア活動別分科会
「地域の力×住民の力～ボランティアから考える地域福祉～」
「社会福祉協議会×義足歴 38 年の義足レディ」当協議会職員発表
「学生×『？』」
・子育てイベント　・読み聞かせ

2）ボランティア講座（町受託事業）

ボランティアの安定的、継続的な活動を支え、更なる充実を図るために、ボランティア活動のきっかけづくりや、活動に必要な知識、技術を学ぶ研修・講座を開催し、人材育成とスキルアップを行うことを目的にボランティア講座を実施しました。

〇夏休みボランティア大作戦

①令和５年８月３日　いこいの里　参加者 22 人

内容：「ボランティアとは？」「防災カードゲームシャッフル＋」

②令和５年８月 10 日　※台風の為中止

③令和５年８月 17 日　いこいの里　参加者 20 人

内容：「ボランティアスタンプラリー」「壁新聞作成」

〇運転ボランティア養成講座

①令和５年 10 月 13 日　いこいの里　参加者５人

内容：「ボランティアとは？」「活動中に事故を起こしてしまったら」

講師：株式会社リーフデザイン北九州　岩藤秀一郎 氏

②令和５年 10 月 20 日　いこいの里　参加者７人

内容：「福祉車両の使い方」「運転ボランティアの紹介」

３）岡垣町ボランティアクラブ

〇ボランティアクラブ説明会

令和５年5月 13 日　いこいの里　参加者 17 人（会員：９人、保護者：８人）

内容：「岡垣町ボランティアクラブの概要について」「今年度の予定について」

「ボランティア活動保険について」

〇ボランティアクラブの活動状況

・ふれあい in 岡垣

第１回　令和５年７月９日　中央公民館　台風の為中止

第２回　令和５年７月 24 日　中央公民館　参加者３人

内容：受け入れ式で使うウエルカムボードの作成等

・千羽鶴作成

令和５年8月１日～8月 31 日　　いこいの里　参加者３人

・まつり岡垣

令和５年 10 月 15 日　岡垣サンリーアイ　参加者９人

内容：赤い羽根共同募金運動の支援（ポップコーン・風船配り）

・令和６年岡垣町二十歳式

令和６年1月7日　岡垣サンリーアイ　参加者 15 人

内容：配布物の袋詰め作業、二十歳式及び来場者の受付

３．地域でともに生きる「環境」づくり

全ての人が年齢や状況を問わず、その人のニーズに合った支援が受けられるよう全世代・全対象型の地域包括支援体制づくりが求められています。支援を必要とする人が、必要とするときに、適切なサービスを利用できるように、きめ細かな情報提供や相談支援体制の充実を図るとともに、誰もが住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができる環境の整備に努めました。

また、地域福祉を推進するため、地域の人たちが地域の色々な場所で、様々な関りを持

ち交流できるよう地域福祉の拠点づくりを継続支援します。

（１）きめ細かな情報提供と相談支援体制の充実

【具体的な取り組み】

■相談支援体制の充実　　■広報広聴機能の強化

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■相談については、他職種・他機関と連携し困りごとの解決を図りました。

■全国の先進事例や町内での優れた取り組みを把握し、社協だよりやホームページを活用し情報発信に努めました。

【主な事業】

１）相談支援体制の充実

〇重層的支援体制整備事業（町受託事業）

児童や高齢者、障がい者、生活困窮など、個人や世帯が複数の課題を抱える場合や、制度の狭間にある課題を抱える場合、支援する側が自分の分野を超えて受け止めることで、専門職や地域が連携して継続的に関わっていく必要があります。重層的支援体制整備事業の実施にあたり、複合的な課題を抱える個別課題への適切な対応と充実した包括的な相談支援体制づくりを推進するため、引き続き関係機関や新たなつながりを構築できた支援機関等との横断的な支援ネットワークづくりに取り組みました。

〇コアメンバー会議（定例毎月１回）　　岡垣町役場

出席者：長寿あんしん課、子育てあんしん課、こども未来課、福祉課・社協（事務局）

内　容：各課や社協に相談のあったケースの中で、多問題や複雑化している世帯の情報を共有しました。共有した世帯の状況によって、早期に支援が開始になりそうな場合はモデルケースとし、それ以外は経過を観ていくケースに分けました。支援の方向性の確認や支援機関の役割分担が必要と判断した場合は、支援会議や重層的支援会議の開催を検討しました。

〇重層的支援会議

令和５年６月20日　いこいの里

テーマ：病識がなく、家族への暴言や地域とトラブルを起こしているが、医療との関わりが全くなくなっているケース

内　容：医療との関りがなくなり、病状が悪化して家族への暴言や地域とトラブルを起こしている方への支援やその対応に疲弊している家族をどのように支援するかについて協議しました。

参加者：福祉課、長寿あんしん課、子育てあんしん課、こども未来課、社協（事務局）
保健師（宗像・遠賀保健福祉環境事務所）、看護師、作業療法士（訪問看護）
住宅型老人ホーム職員（介護保険外サービス）、居住支援法人職員（水巻町社会福祉協議会）

令和５年12月19日　いこいの里

テーマ：病識がないため医療との関わりが全くなくなっており、攻撃的な言動があるため家族が疲弊しているケース
（前回６月開催した事例の計画の見直しと新たな事業を追加）

内　容：医療との関わりができるように支援していたが、現状では何か起きないと医療につながることは難しい状況となったため、この現状でどのような支援ができるかについて協議しました。

参加者：福祉課、長寿あんしん課、子育てあんしん課、こども未来課、社協（事務局）
保健師（宗像・遠賀保健福祉環境事務所）、看護師、作業療法士（訪問看護）

〇各種研修会

令和５年５月12日　市町村地域福祉計画・重層的支援体制整備に関する研修
参加者：福祉課１人・社協２人

令和５年５月18日・６月15日・７月20日
ひきこもり家族のつどい
参加者：各回 社協１人

令和５年９月27日　チームでまちをデザインする
包括的な支援体制･重層的支援体制整備事業セミナー
参加者：社協１人

令和５年９月29日　中間・遠賀圏域若者自立支援機関連携会議
参加者：社協１人

令和５年12月２日　福岡県ひきこもり支援者等地域ネットワーク会議（宗像・遠賀地域）
参加者：社協２人

令和６年２月17日　セルフネグレクトの支援に関する研修
参加者：社協２人

■関連委員会への出席

岡垣町児童家庭支援ネットワーク（要保護児童対策地域協議会）

令和５年５月26日　代表者会議・実務者会議　参加者：社協２人
令和５年10月27日　実務者会議　参加者：社協１人
令和６年２月22日　実務者会議　参加者：社協１人

〇総合福祉相談窓口、法律相談

社協は、現在の法律や制度で定められた福祉サービスに対する福祉課題や、高齢者の買い物など日常生活上起こり得る生活課題について、地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制の構築に取り組みました。

総合福祉相談窓口

地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制を構築するために、国や県、町の動向を把握し、法令や制度を網羅した手引きを活用し、すべての職員が対応できるように、職員間の情報共有に努めました。

総合福祉相談窓口（毎月２回・いこいの里）、電話受付等

総合福祉相談 703件（R4年度：746件）

〇法律相談

地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制を構築するために、職員の資質向上や分かりやすい情報提供に努め、法律相談を開催しました。

法律相談（弁護士 13回：いこいの里）

76件（R4年度：69件）

２）広報広聴機能（社協だより・ホームページ）の強化

〇社協だよりの充実

社協の広報紙社協だよりを町内全戸に配布し、社協の事業や地域の福祉活動等の記事を掲載し、事業の普及・啓発に努めました。

発行総部数82,800部（６回／奇数月：全戸配布）

（5・7月：14,000 部　　9・11・1・3月：13,700 部）

〇社会福祉協議会ホームページ

社会福祉協議会の活動内容やいこいの里入浴施設のＰＲ等、掲載内容の充実を図るとともに常に新しい情報を公開するように努めました。

（2）福祉サービスの充実と基盤の整備

【具体的な取り組み】

■いこいの里の運営　　■地域福祉を支える財源等の確保

■各種福祉関連計画に掲げたサービスの提供

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■共同募金運動を推進し、地域福祉のために積極的に活用しました。

■従来の分野では対応できない地域の問題や、制度の狭間にある複雑な課題に対し、地域での生活支援体制を行政と協議しました。

【主な事業】

1）いこいの里の運営（指定管理期間：令和３年度～令和７年度）

５月に新型コロナウイルスが２類から５類になり、規制が大幅に緩和されたため、イベントの実施や適切な施設管理で施設利用者を増員することができました。（約１万１千人増）

≪いこいの里施設利用状況≫

区 分 ＼ 年 度	**令和５年度**	令和４年度
施設利用者（利用率）	**106,460 人（60.8%）**	95,362 人（56.6%）
ふれあい館利用者 （浴室施設利用者は除く）	**26,354 人**	22,427 人
浴室施設利用者	**40,670 人**	38,842 人

利用率：使用日/開館日

〇入浴施設衛生管理講習会

令和５年7月 18 日　直方市　出席者１人

・入浴施設の衛生管理及びコンプライアンスの遵守について

講師　福岡県保健医療介護部生活衛生課 職員

・現場から見えるレジオネラ症感染防止対策

講師　NPO 法人入浴施設衛生管理推進協議会九州支部長 新道欣也 氏

〇ふれあいイベント

令和５年７月 14 日七夕まつり、令和５年 10 月７日秋まつり、令和６年１月 13 日新春ふれあいイベント、令和６年３月９日ひな祭りを開催しました。

2）共同募金運動の推進

共同募金会岡垣町支会と連携・協力し、共同募金運動を推進しました。

募金実績　共同募金　5,285,926 円（R4 年度 5,302,688 円）

歳末募金　　486,790 円（R4 年度 488,559 円）

3）介護保険等サービスの質の向上

①居宅介護等事業

介護保険制度において、要介護等と認定された高齢者や障害者総合支援法における障害支援区分の判定を受けた利用者に対して、質の高いサービスの提供を行うため、職員を対象とした研修会の開催や資格取得のための勉強会などを積極的に行いました。

訪問介護事業では、全体的に利用者数は減りましたが、身体介護の利用者が増えたことで、大幅な減収とはなりませんでした。

居宅介護支援事業は、10 月からケアマネジャーが 1 人増えて 3 人になりましたが、利用者数を増やすことができなかったため減収となりました。

収入　居宅介護支援事業　　7,843,400 円（R4 年度：11,855,880 円）
　　訪問介護等事業　　54,038,962 円（R4 年度：54,611,947 円）

≪介護保険事業利用状況≫

区分＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R5 計	R4 計
訪問介護事業	66	68	67	71	66	64	64	65	56	58	58	54	757	810
介護予防・日常生活支援総合事業	59	60	58	57	60	58	55	54	54	53	53	51	672	725
居宅介護支援事業	47	48	48	51	48	51	51	52	50	52	52	49	599	857
介護予防支援事業	17	17	16	15	15	14	14	14	17	19	21	21	200	334
延利用者数	189	193	189	194	189	187	184	185	177	182	184	175	2,228	2,726

②障がい者の自立に関する取り組み

居宅介護・重度訪問介護事業では、障がいのある人等がその有する能力に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように訪問介護員（ホームヘルパー）が入浴、排せつ、食事の介護、その他の生活全般にわたる援助を行いました。同行援護事業では、常にサービスを提供できる体制を整えています。

≪障害者総合支援法に基づく居宅介護等事業利用状況≫

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R5 計	R4 計
居宅介護等事業	10	13	11	11	11	11	11	15	13	13	13	13	145	158
地域生活支援事業	4	4	4	4	4	4	4	3	3	2	3	2	41	31
同行援護事業	1	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	5	5

③短期訪問介護事業

介護保険制度で自立と認定された人や介護保険制度外での支援が必要な人等へ訪問介護サービス（ホームヘルプサービス）を実施しました。

≪短期訪問介護事業≫

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R5 計	R4 計
短期訪問介護事業	16	15	16	16	15	15	12	17	13	17	13	14	179	219

4）在宅福祉サービスの充実

・送迎サービス事業　・入浴サービス事業　・福祉機器貸与事業
・福祉車両貸与事業　・コミュニティ車両貸与事業
・配食サービス事業（町受託事業）　・手話通訳者派遣事業（町受託事業）

〇送迎サービス事業

低所得で車いすや常時つえが必要な高齢者や障がい者の福祉向上及び社会参加の促進・支援として、送迎ボランティアの協力のもと送迎サービス事業を実施しました。

送迎サービス事業に必要な知識を習得することにより、送迎サービス事業で活動するボランティアが安全・安心して活動できることを支援するために研修会を開催しました。

令和５年７月８日　いこいの里
参加者　送迎ボランティアの会 20 人
内容　「交通安全講習」「視覚障がい体験」
≪送迎サービス利用状況≫

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R5 計	R4 計
送迎回数	26	21	24	25	24	24	21	24	23	20	14	25	271	244
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動人員（延）	50	39	51	53	54	56	49	51	46	47	35	50	581	552

〇入浴サービス事業
利用者なし。
〇福祉機器貸与事業
福祉機器を貸与することで、在宅の高齢者や障がいのある人等に日常生活の利便性の向上が図れるように支援しました。
≪福祉機器貸与延台数≫ 延べ 136 台

車いす	103 台	ベッド	１台	歩行器（車）	11 台
ポータブルトイレ	12 台	シャワー椅子	６台	介助バー	１台
入浴用踏み台	１台	シャワーキャリー	０台	オーバーテーブル	１台

〇福祉車両貸与事業
高齢や障がい等のため車いすを使用しなければ外出ができない人等の福祉の増進を図るため、社協所有の福祉車両（車いす対応）の貸与事業を実施しました。
13 回 （R4 年度：９回）
〇コミュニティ車両貸与事業
ボランティア活動や地域コミュニティ活動を支援するため、軽トラックの貸与事業を実施しました。
２地区：３回（R4 年度：３地区・２団体：９回）
〇配食サービス事業（町受託事業）
調理・配食ボランティアやシルバー人材センター等への業務委託により、週５回（火曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日）の 256 日配食サービス事業を実施しました。
配食サービス事業で活動するボランティアが安全・安心して活動できることを支援するために交通安全講習を開催しました。
令和５年７月８日　いこいの里
参加者　やまびこの会 14 人
≪配食サービス利用状況≫

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R5 計	R4 計
配食日数	21	22	22	21	22	22	21	22	20	20	21	22	256	256
配 食 数	1,936	1,962	1,925	1,849	1,901	2,023	1,912	1,918	1,697	1,612	1,684	1,733	22,152	26,393
平均配食数	92	89	88	88	86	92	91	87	85	81	80	79	87	103

〇手話通訳者派遣事業（町受託事業）
聴覚障がい者、音声・言語障がい者の日常生活や社会生活におけるコミュニケーションを支援するために、手話通訳者を派遣しました。

≪コミュニケーション支援状況≫

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R5 計	R4 計
利用者数	7	5	7	11	10	13	15	14	13	14	14	19	**142**	100
派遣者数	7	5	7	11	10	13	14	14	13	14	14	19	**141**	98

（3）人にやさしい生活環境づくり

【具体的な取り組み】

■地域福祉の活動拠点づくり　■移動手段の確保

■ユニバーサルデザインの推進と啓発

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■地域での有償サービスや、地域と事業所の連携による新たな移動支援サービスの取り組みを行政と協議しました。

【主な事業】

1）移動支援サービスの検討・支援

本年度から送迎サービス事業を総合事業（介護保険制度）の受託事業として、実施しました。

4．誰もが安心して暮らせる「まち」づくり

災害は、ある日突然に起こるもので、日常の備えが欠かせません。特に災害発生時は、地域のチカラ（互助）が重要です。そこで、災害時や緊急時に適切に対応できるよう、支援が必要な人の把握や地域での見守り体制を強化しました。

また、関係機関と連携し、生活に困窮した人や制度の対象とならない制度の狭間にある人への支援や、虐待防止に関する施策の推進や成年後見制度の普及に努め、権利擁護を必要とする人に適切な支援を行いました。

（1）災害時・緊急時の助け合いのしくみづくり

【具体的な取り組み】

■避難行動要支援者支援体制の確立　■自主防災組織の育成

■災害ボランティアセンターの設置　■福祉避難所の整備

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■福祉的な配慮が必要な場合は福祉避難所を設置し、適切に運営しました。

【主な事業】

1）災害ボランティアセンターの設置・運営訓練の実施

災害ボランティアセンターの設置については、町と協定を締結しています。運営訓練については、中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会主催の「災害ボランティアンターの設置・運営研修に役職員が参加することとしていましたが、能登半島地震の影響により、次年度の開催となりました。

2）災害時の広域的な連携体制の強化

災害時において、効率的・効果的に災害ボランティア活動などの被災者支援活動を行えるように、広域的な災害支援協定を締結し、連携しています。

3）福祉避難所の設置・運営

福祉避難所については、いこいの里が災害ボランティアセンターの拠点となるため、行政と福祉避難所の運営について協議しました。

４）災害ボランティアセンターへの職員派遣

令和５年７月７日からの大雨災害に伴い、被害が大きかった地域にて災害ボランティアセンターが開設され、福岡県内社協職員の派遣要請に応じて、４名の職員を被災地の災害ボランティアセンターへ派遣しました。

第１クール：７月 16 日～18 日（久留米市災害ボランティアセンター）
第５クール：７月 27 日～30 日（久留米市災害ボランティアセンター）
第 16 クール：９月１日～３日（久留米市災害ボランティアセンター）
第 18 クール：９月 14 日～15 日（久留米市災害ボランティアセンター）

（２）自立を支えるための支援

【具体的な取り組み】

■生活に困窮した人の自立支援　　■更生保護活動の支援

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■ふくおかライフレスキュー事業に参加し、生活困窮者の自立を支援するネットワークづくりに取り組みました。

■福岡県社会福祉協議会が実施する生活福祉資金貸付事業を通じ、生活困窮者の社会的、経済的自立を支援できるよう努めました。

【主な事業】

１）ふくおかライフレスキュー事業（実施主体　福岡県社協）

ふくおかライフレスキュー事業は、高齢者の介護•障がい児者への支援•児童の養育等、さまざまな専門性を備え長年に渡り地域で福祉を支えてきた社会福祉法人が、地域の課題に向き合い、訪問・相談を通じて、困りごとが解決できるよう支援を行う社会貢献の取り組みです。岡垣町からは３法人５事業所が参加し、地域の困りごと解決に取り組みました。生活福祉資金や生活保護など、他制度で対応したため、ライフレスキューの援助に発展する相談はありませんでした。

参加法人　社会福祉協議会、日本傷痍者更生会（恵の家、希望舎、報恩母の家）
　　岡垣睦福祉会

実績　ふくおかライフレスキュー事業０件（R4 年度：０件）

〇岡垣町内社会福祉連携協議会

令和５年７月 14 日　いこいの里　参加者：11 人（事務局含む）
内　容：「ふくおかライフレスキューについて」等

〇ライフレスキュー勉強会

令和６年２月９日　いこいの里
内　容：ふくおかライフレスキュー事業の概要について
講　師：福岡県社会福祉協議会　施設・人材・研修部　施設課　主査　高場宣行 氏
参加者：14 人（日本傷夷者更生会、局会、岡垣睦福祉会、社協）

２）生活福祉資金貸付事業（県社協受託事業）

景気低迷や新型コロナウイルス感染症が原因による離職や母子世帯等で生活に困窮している方等の相談を行い、貸付要件に該当している場合は、生活福祉資金の貸付により、自立更生の支援をしました。また、生活福祉資金特例貸付償還期間中における借受人世帯への相談支援を行いました。

相談件数：53 件（R4 年度：36 件）

貸付件数：27 件（R4 年度：12 件）
◎緊急小口資金：11 件　985,000 円
内訳（生活保護つなぎ：8 件、初任給つなぎ：2 件、医療費：1 件）
◎教育支援資金：10 件　5,823,000 円
内訳（教育支援費：9 件、就学支度費：10 件）
◎福　祉　資　金：5 件　2,992,000 円
内訳（生活保護受給者生活必需品：4 件、技能習得費：1 件）
◎総合支援資金：1 件　683,000 円
内訳（生活支援費：1 件、一時生活再建費：1 件）

（3）権利擁護を必要とする人への支援

【具体的な取り組み】

■成年後見制度の普及と利用促進　■金銭管理に不安を抱える人への支援
■死後事務の支援　■虐待や DV 被害の防止対策

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■法人後見事業の取り組みについての検討を行いました。
■福岡県社会福祉協議会が行う日常生活自立支援事業を通して、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理などを行いました。
■ずっと安心プラン事業（葬儀納骨残存家財処分などの死後事務委任）の充実に努めました。

【主な事業】

1）法人後見事業

認知症高齢者や障がいのある人で、意思決定が困難な方や判断能力の不十分な人が地域で安心して生活が送れるよう、岡垣町社会福祉協議会が成年後見人等となり、成年被後見人等の身上監護と財産管理を行いました。受任件数 1 件（類型：保佐類型）

〇成年後見運営委員会

成年被後見人等の権利を擁護するとともに、法人後見事業の適正な運営を確保するため運営委員会を開催しました。

成年後見運営委員会　令和６年２月 14 日　いこいの里　参加者５人

〇その他研修会への参加

成年後見制度利用促進研修会（町主催）、法人後見受任社協研修会（県社協主催）等

2）日常生活自立支援事業（県社協受託事業）

認知症、知的障がい、精神障がい等により福祉サービスの利用や日常的な金銭管理等に不安がある人を対象に、本人の自立に向け「福祉サービス利用援助」「日常的な金銭管理」などの支援を行いました。

日常生活自立支援事業契約者 24 人、支援件数延べ 273 件
（R4 年度：契約者 18 人、延べ 301 件）

3）ずっと安心プラン事業

高齢者や障がいのある人などが安心して生活できるよう、社協が事前に預託金を預かり、葬儀・家財処分などのサービスや定期的な見守りなど行う「ずっと安心プラン事業」の周知啓発を行うため、終活に関する各種相談受付や終活セミナー開催など事業ＰＲに取り組みました。

〇契約者４人、終活相談延べ 56 件

〇終活セミナー（全３講座）　いこいの里
講　師　終活パートナー九州　真武純哉 氏
第１回　令和６年１月25日　参加者22人
講　演　「終活のすすめエンディングノートの選び方と注意点」
第２回　令和６年２月14日　参加者19人
講　演　「よくある相談トラブルの事例　その予防と解決法」
第３回　令和６年２月21日　参加者23人
講　演　「地域で考える終活　遺品整理の現場から」

４．法人としての取り組み

【具体的な取り組み】
■行政、関係機関・団体との連携強化
■役員体制および事務局体制の強化

〇社会福祉協議会役員体制の強化
研修会等へ役職員が参加しました。
令和５年福岡県社会福祉大会
令和５年10月23日　春日市クローバープラザ　役員８人
記念講演　「複雑・多様化する社会に応えるために～つながりの大切さ～」
講師　同志社大学 社会学部　教授 永田 祐 氏
令和５年度九州ブロック地域福祉研究会議
令和６年１月17・18日　鹿児島県　役員２人
基調報告「地域福祉の推進と社会福祉協議会の役割」
講師　全国社会福祉協議会 地域福祉部　副部長 水谷詩帆 氏
第２分科会「包括的な支援体制の構築に向けた社協の取組～多様な主体との連携・協働を深める取組について考える～」
座　長　長崎県社協 地域福祉推進課　課長 五島昌幸 氏
助言者　福岡県立大学 人間社会学部　教授 村山浩一郎 氏
発表者　福岡県糸島市社協 経営管理　課長 加藤博貴 氏
大分県杵築市社協　常務理事兼事務局長 江藤 修 氏
鹿児島県鹿屋市社協 地域福祉係　係長 髙江行夫 氏
令和６年２月25日　いこいの里　役員５人
テーマ「社会福祉法人の地域における公益的な取り組み」
講　師　北九州・臨床ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ研究所
代表 衣笠一茂 氏
令和５年度中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会役職員研修会（能登半島地震の影響により次年度に延期）

〇社会福祉協議会事務局体制の強化
令和５年４月から新規職員１人を雇用し、事務局体制の強化を図りました。
職員の資質の向上や業務量に応じた適切な職員の配置など、より一層の事務局体制の強化を図るとともに、多様な福祉ニーズに対応できるように、職員の自主的な勉強会や情報交換会を開催しました。

社協の事業展開を迅速かつ効率的に行うため、毎月定例会議を開催しました。
職員研修会（職員・嘱託職員）
令和５年８月18日　８人・22日　岡垣町役場　３人
人権に関する研修（LGBTへの理解について）
講師　OVER THE RAINBOW　代表 荒牧明楽 氏
令和５年９月19日　岡垣町役場　２人
人事考課研修（被考課者）
講師　一般社団法人日本経営協会専任講師 中島一平 氏
令和６年１月12日：８人・30日　岡垣町役場　４人
クレーム研修（クレーム対応・ハードクレーム対応（係長以上））
講師　株式会社インソース　講師 皆川博伸 氏
令和６年１月16日　４人・23日　岡垣町役場　８人
ゲートキーパー研修（クレーム対応・ハードクレーム対応（係長以上））
講師　産業医科大学 臨床心理士　松元知美 氏

〇制服・体操服リユース事業

不要になった「中学校の制服」や「小・中学校の体操服」を集め、必要な児童・生徒への橋渡しをすることで、子どもたちの物を大切にする心を育むとともに、子育て世帯の経済的負担軽減を図りました。
寄附実績37件・譲り受けた実績15件

〇その他の事業

社協会長表彰

社会福祉の増進に努め、その功績が顕著な人に対し、表彰状及び感謝状を贈呈しました。
令和５年8月26日　いこいの里
被表彰者：19人・１団体
社会福祉事業特別功労者４人、民生委員・児童委員特別功労者８人、社会福祉事業協力者６人、特別表彰（寄附）１人・１団体

助成事業

児童養護施設や要援護児童等に対し、助成金を交付しました。
≪活動助成金交付内容≫
・児童養護施設報恩母の家（交流会等）
・自転車通学生ヘルメット購入費補助
岡垣中学校52人、岡垣東中学校52人
・修学旅行費補助（要保護･準要保護等の児童･生徒を対象）
岡垣中学校26人、岡垣東中学校21人、内浦小学校２人、吉木小学校５人、海老津小学校８人、山田小学校６人、戸切小学校３人
・特別支援学級運営費補助
岡垣中学校16人、岡垣東中学校11人、内浦小学校１人、吉木小学校14人、海老津小学校20人、山田小学校22人、戸切小学校３人
・通級指導学級運営補助
岡垣中学校12人、海老津小学校12人、山田小学校13人

歳末たすけあい事業

在宅で生活している重度の障がい者（児）や施設入所者に、歳末見舞金を配布しまし

た。また、ひとり暮らし高齢者等へ年賀状を送る事業を実施する自治区（要申請）を対象に、年賀はがきを配布しました。

在宅の重度障がい児・者（歳末見舞金）	45 人
障害者支援施設「希望舎」入所者（歳末見舞金）	46 人
障害者支援施設「こすもす園」入所者（歳末見舞金）	50 人
共同生活援助施設「あゆみヶ丘」入所者（歳末見舞金）	31 人
児童養護施設「報恩母の家」入所者（歳末見舞金）	56 人
年賀はがきの配布（27 自治区）	1,034 枚

新型コロナウイルス感染症関係事業（町受託事業）

・新型コロナウイルス感染症に係る自宅療養者等生活支援事業（町受託事業）
　実績０件（R5.5.8 終了）

・ワクチン接種会場送迎事業
　送迎回数　６回（R4 年度：10 回）

・新型コロナワクチン配送事業
　配送件数　343 件

福祉総合計画・地域福祉活動計画策定（策定期間：令和４・５年度）

　令和４年度から岡垣町福祉総合計画と社協地域福祉活動計画を岡垣町との協働により、一体的に策定しました。

〇各会議開催状況

　理事会・評議員会開催状況

　＜理事会＞

第１回	５月 25 日	議案第１号	理事選任候補者の推薦について
		議案第２号	評議員選任候補者の推薦について
		議案第３号	第１回評議員選任・解任委員会の開催について
		議案第４号	就業規則の一部を改正する規則
		議案第５号	職員給与規程の一部を改正する規程
		議案第６号	第１回評議員会の開催について
第２回	６月７日	議案第７号	理事選任候補者の推薦について
		議案第８号	監事選任候補者の推薦について
		議案第９号	令和５年度社会福祉法人岡垣町社会福祉協議会会長表彰及び感謝の対象者の決定について
		議案第 10 号	令和４年度事業報告について
		議案第 11 号	令和４年度収入支出決算
		議案第 12 号	第２回評議員会（定時評議員会）の開催について
第３回	６月 22 日	議案第 13 号	会長の選定について
		議案第 14 号	副会長の選定について
		議案第 15 号	常務理事の選定について
		議案第 16 号	評議員選任・解任委員会委員の選任について
第４回	２月６日	議案第 17 号	嘱託及び臨時職員就業規程の一部を改正する規程
		議案第 18 号	常勤役員給与等の規程の一部を改正する規程
		議案第 19 号	職員給与規程の一部を改正する規程

		議案第20号	令和５年補正予算（第１号）
		議案第21号	第３回評議員会の開催について
第５回	３月21日	議案第22号	指定居宅介護支援事業所運営規程の一部を改正する規程
		議案第23号	指定訪問介護事業所運営規程の一部を改正する規程
		議案第24号	指定障害福祉サービス事業所いこいの里ホームヘルパーステーション運営規程の一部を改正する規程
		議案第25号	指定障害福祉サービス（同行援護）事業所いこいの里ホームヘルパーステーション運営規程の一部を改正する規程
		議案第26号	福岡県介護保険広域連合訪問型サービス事業所運営規程の一部を改正する規程
		議案第27号	令和５度補正予算（第２号）
		議案第28号	令和６年度事業計画について
		議案第29号	令和６年度予算
		議案第30号	第４回評議員会の開催について

＜評議員会＞

第１回	６月６日	議案第１号	理事の選任について
第２回	６月22日	議案第２号	理事の選任について
		議案第３号	監事の選任について
		議案第４号	令和４年度事業報告について
		議案第５号	令和４年度収入支出決算
第３回	２月15日	議案第６号	令和５年度補正予算（第１号）
第４回	３月29日	議案第７号	令和５年度補正予算（第２号）
		議案第８号	令和６年度事業計画について
		議案第９号	令和６年度予算